

# 平成26年度 事業報告書

平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで

特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN

## 1 事業の成果

### (1) 子どもの村の設立及び運営

#### 1) 子どもの村東北設立への支援

大震災を機に子どもの村福岡と東北の関係者が協力し、全国からの支援を受けて、2014年12月、子どもの村東北が開村式を迎えることができたことは、大きな成果であり喜びであった。

#### 2) 子どもの村福岡の運営

① 2014年度当初の4家族14名から、一時15名となったが、「実家族との連携」により、1名が家庭へと復帰、年度末は再び14名となった。育親家庭を5軒にとの目標は達成できなかったが、子どもたちは、療育施設、幼稚園、小学校などに元気に通い、養育の成果をあげた。

② 「家庭養護と支援のモデル」をめざす子どもの村の実践の成果は、各地からの視察者に見られるように、全国的な注目を受けて来た。2014年度は、支援体制の問題など困難な課題にも直面したが、村全体の協力で乗り越え、村長を中心とした組織運営体制の強化が進んだ。

### (2) 家族と暮らせない危機にある子どもと家族への支援

福岡市より受託して2年目となる「福岡市子ども家庭支援センターSOS子どもの村」は、3名の専門スタッフが、困難を抱える子どもと家族の支援に取り組んできた。

① 相談事業では、発達障害や不登校、子どもの暴力など深刻なものが増えており、子どもの権利尊重を基本にしたいねいな支援で実績を上げてきた。

#### ② 里親普及支援事業

- ・子どもサポート部を中心として研究開発したプログラムを活かして里親研修を行ってきた。
- ・地域の子ども・家庭支援のしくみづくりのモデルをめざして、校区里親の開拓事業を行った。

#### ③ ショートステイ・一時保護

困難を抱えた家庭の子どもを短期間預かるショートステイや一時保護のしくみを活用して、子どもの村で預かる取り組みを進めてきた。

### (3) 子ども支援プログラムの研究開発と人材養成

① “Quality 4 Children”、“Protection Policy”など重要な文献を翻訳、発行した。

② 専門里親研修で行った「フォスタリングチェンジ」や「子どもの忠誠葛藤」、フォーラムで社会的養護のユースたちが訴えた「自立を支えるしくみづくり」など、今後取り組むべき課題が浮き彫りにされた。

③ 里親リフレッシュキャンプの「子どもプログラム」の開発が高い評価を得た。

④ 2015年1月のオーストラリア研修では、子どもの村東北の人材養成とともに、子どもと家族を支援し、代替養育を予防する先進的なプログラムを学ぶことができた。

⑤ 家庭養護推進のための多分野ネットワークづくりは、小児科医、精神科医、弁護士、里親会、さらに施設へと分野が広がってきた。

### (4) アドボカシーの活動

子どもの権利尊重の家庭養護推進と養育の質の向上、社会的養護のユースとの協働の必要性などを、広く訴えていく活動を行った。

### (5) 社会的養護に関する情報提供・啓発事業

「家族と暮らせない子どもたち」への関心を「新しい層」に広げることを目的として、広報誌「かぞく」を発刊するなどのチャレンジをした年だった。

### (6) 子どもに関わる個人・団体・企業その他機関との連携

子どもに関わるさまざまな専門分野、多彩なNPO、関連機関・団体との交流、連携の積み重ねによって、SOS子どもの村への理解が広がり、支え合う関係が深まってきている。

### (7) 資金開発・支援者リレーションズ

資金開発のための取り組みは一定進んだが、目標とした資金開発体制の強化は充分とはいえず、今後に向けてもっとも大きな課題となっている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内 容	実施 日時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人 数	支出額 (千円)
第5条 (1) 子どもの村の設立・ 運営	①子どもの村福岡の運営事業 養育支援、実家族との連携 関係機関との連携、 地域・ボランティア・メディアと の協働 ②子どもの村東北への支援	通年	子ども の村	23人	社会的養護を必要とする子 ども・里親及び地域住民 200名	66,229
第5条 (2) 家族と暮らせない子 どもたちおよびその 危機にある子どもた ちへの支援・支援シ ステムの研究開発事 業	①子ども家庭支援センター事業 (福岡市委託事業) ②里親普及支援事業 校区里親普及事業 ショートステイ・一時保護 ③子ども支援プログラムの研究開発 と人材養成 SOSプログラム翻訳発行 オーストリア研修 子どもプログラムとリフレッシュ キャンプ ④家庭養護推進のための多分野ネット ワークづくり 専門家啓発研修(小児科・精神科) 弁護士との冊子発行他	通年	福岡市内	23人	社会的養護を必要とする子 ども及び里親、その支援者 のべ500名	19,276
第5条 (3) 子どもの社会的養護 に関する情報提供・ 啓発事業	①広報誌「かぞく」発行普及 パンフレット作成 ニューズレター3回発行 WEB・オンライン寄付導入 メディアとの協働・広告・街頭キャ ンペーン ②資金開発・支援者リレーションズ 後援会、小児科医会との連携	通年	福岡市内	のべ 450人	不特定多数の市民	9,192
第5条 (4) 家庭的養護を支える 人材養成事業	①里親・ファミリーホーム専門研修 一般公開研修	通年	福岡市内	のべ 50人	社会的養護を必要とする子 どもたち多数	7,325
第5条 (5) 子どもに関わる個 人・団体・企業・そ の他関係機関など との連携	①ファミリーシップ福岡・子どもにや さしいまちづくりネットワーク・福 岡市こどもの虐待防止推進委員会と の連携	通年	福岡市内	のべ 20人	社会的養護を必要とする子 どもたち多数	0
第5条 (6) SOS子どもの村インタ ーナショナルとの連 携	①インターナショナル加盟に向けての 取組み ②アジア事務局長会議への参加	通年		2名		2,146
第5条 (7) 子どもの権利に関す るアドボカシー活動	①東京フォーラム 子ども政策への提言 村訪問者啓発・学会発表・雑誌掲載	通年	全国	23人	社会的養護を必要とする子 どもたち多数	1,336